

高校公民プリント（過去問類似）
公共、倫理（2025年～の共通テスト本試験）
No.10

名前

得点

/9

問1 西洋の近代社会を頂点とする進歩史観や自文化中心主義（エスノセントリズム）を批判し、すべての文化はそれぞれの環境に適応して歴史的に形成されたものであり、独自の価値を有するため、文化の間に優劣や高低は存在しないとする、レヴィ＝ストロースらによって提唱された考え方を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 自由至上主義 2. 自民族中心主義 3. 文化相対主義 4. 文化帝国主義

問2 アメリカの政治学者ジーン・シャープが提唱した、独裁体制に対して武力を使わずに抵抗する手法。市民が自主的な非政府団体を多数組織して社会の自律性を高め、人々の自由な交流や連帯を通じて権力への依存を断ち切ることで、独裁権力を崩壊に導くことができるとした、この抵抗方法を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 非暴力不服従 2. 市民的不服従 3. 環境保護運動 4. 非暴力的闘争

問3 アテネの市民たちに対し、金銭や名誉を求めることよりも、自己の魂をできるだけ優れたものにすること（魂への配慮）を促し、人間にとって最も大切なことは「よく生きること」であると説いた、古代ギリシアの哲学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ソクラテス 2. プラトン 3. エピクロス 4. ピタゴラス

問4 孔子が説いた、自らの私欲に打ち勝って、社会規範である「礼」に立ち返ることを意味する、内面的な人間愛である「仁」を実践するためのあり方を表した四字熟語は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 知行合一 2. 克己復礼 3. 仁義礼智 4. 格物致知

問5 近年、脳科学や神経科学が急速に発展し、脳内の活動データを読み取る技術などが実用化されつつある。これに伴い、個人の思考や感情に関わる個人情報のプライバシー保護や、その不当な利用を防ぐためのルール作りなど、新たな倫理的課題を扱う学問分野が注目されている。このような、先端科学技術の進展に伴う脳情報の取り扱いに関する倫理的課題を研究する分野を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 情報倫理学 2. 環境倫理学 3. 脳神経倫理 4. 生命倫理学

問6 『正義論』を著し、功利主義を批判して「公正としての正義」を提唱したアメリカの哲学者は誰か。彼は、無知のヴェールに覆われた原初状態において合意される正義の原理として、社会的・経済的不平等が最も不遇な立場にある人々の状況を最大限に改善する場合にのみ許容されるという原理などを提示した。（2026年 全国公立入試 類似）

1. アレント 2. ロールズ 3. サンドル 4. ノージック

問7 現代社会において、客観的な統計では少年犯罪の件数が減少傾向にあるにもかかわらず、テレビやインターネットで凶悪な少年犯罪が繰り返し報道されることで、多くの人々が「少年犯罪は増加している」と誤って認識してしまう現象がみられる。このように、想起しやすい情報に基づいて発生確率を過大評価してしまう認知バイアスを何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 生存者バイアス 2. 利用可能性バイアス 3. 後知恵バイアス 4. 自己奉仕バイアス

問8 ドイツの思想家マルクスが唱えた唯物史観において、社会の土台となる物質的生産活動や経済体制を「下部構造」と呼ぶのに対し、その上に構築され、下部構造によって規定される政治、法律、宗教、そして文化芸術などの精神活動を指す概念は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 生産関係 2. 生産様式 3. 下部構造 4. 上部構造

問9 災害などの危機的状況に直面した際、生じている異常事態を日常の範囲内の出来事として過小評価し、「自分は大丈夫だ」と思い込んで避難などの適切な行動を遅らせてしまう心理的傾向を何というか。国や自治体には、こうした傾向の影響をできるだけ抑えた判断を促すため、公的な情報の利用を容易にするなどの環境整備が求められている。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 生存者バイアス 2. 楽観的バイアス 3. 悲観的バイアス 4. 正常性バイアス

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 3 文化相対主義	各文化が独自の歴史や環境の中で形成された固有の価値を持つため、他者の文化を自らの基準で評価し優劣を競うべきではないとする考え方である。これにより、西洋中心的な進歩史観や自文化中心主義が批判され、異文化をその文脈において理解することの重要性が示された。
問2	答え 4 非暴力的闘争	ジーン・シャープは、独裁体制に対抗するために武力ではなく非暴力的な手段を用いることを提唱した。市民が自主的な非政府団体を組織して社会的なネットワークを形成し、相互に関心を持ち合うことで、独裁権力に対する社会の抵抗力と自律性を高めることができるとした。
問3	答え 1 ソクラテス	魂をできるだけ優れたものにしようと努める「魂への配慮」を説き、単に生きるのではなく「よく生きること」を重んじたのはソクラテスである。彼は、不正に対して不正で返すことは自らの魂を劣悪にする行為であるとして、いかなる場合も不正を行ってはならないと主張した。
問4	答え 2 克己復礼	自分のわがままな欲望に打ち勝ち、社会的な規範や儀礼にかなった行動をとることを「克己復礼」と呼ぶ。これは、内面的な愛である「仁」を社会的に実践するための具体的な方法として重視された。
問5	答え 3 脳神経倫理	脳科学や神経科学の急速な発展に伴い、脳情報のプライバシー保護やその利用に関する倫理的課題を扱う学問分野として脳神経倫理（ニューロエシックス）が提唱された。脳情報は極めて繊細な個人情報であるため、その収集や活用をめぐるには、国際的な個人情報保護への配慮を重視して慎重な取り扱いを求める立場と、誰もがサービスにアクセスできる権利の保証を重視して国が積極的に関与すべきだとする立場の双方が存在し、議論が続けられている。
問6	答え 2 ロールズ	各人が社会的な属性や能力を知らされていない「無知のヴェール」の仮定のもとで、人々が合意するであろう正義の原理を導き出した。その中で、自由の平等な分配を求める第1原理（平等な自由の原理）と、社会的・経済的不平等の是正に関する第2原理（公正な機会均等の原理および格差原理）を提示し、福祉国家的な再分配政策を正当化する理論的基礎を提供した。
問7	答え 2 利用可能性バイアス	メディアで頻繁に報道される情報は、人々の記憶に強く残り、思い浮かびやすい状態になる。客観的なデータを確認することなく、この思い出しやすさを基準にして「世の中で頻発している」と誤認する現象は、認知心理学や行動経済学において重要な概念である。
問8	答え 4 上部構造	唯物史観において、社会の経済的基盤である下部構造（生産力と生産関係）に対し、その上に成立する政治制度、法律、宗教、哲学、芸術などの精神的・制度的営みは上部構造と呼ばれる。下部構造が上部構造を規定・決定するとされる。
問9	答え 4 正常性バイアス	災害時において、危険が迫っているにもかかわらず「大したことはない」と事態を過小評価してしまう心理的傾向を正常性バイアスと呼ぶ。避難行動の遅れを防ぐためには、個人が自身の初期判断の誤りに客観的に気づけるよう、信頼性の高い公的情報へ迅速にアクセスできる環境を整えることが重要である。